

評価委員会総合評価

研究課題名：(地方共同研究)立山カルデラ新湯周辺の火山活動と水位変動に関する調査

評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高薮出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成 29 年 2 月 17 日（書面開催）

1. 総合評価

- (1) 採用の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

数日から数か月の周期で満水と干上がりを繰り返している非常に珍しいタイプの間欠泉を対象とした観測的研究である。観測によって間欠泉の実態を把握するだけでも十分に学会発表できる内容である。観測の準備や計画もしっかり練られている。

科学的に興味深い研究対象であり、計画に沿って着実に進めていただきたい。成果の有無は現象次第のところもあるが、地台職員の技術力（さまざまな観測準備等も含め）の向上が期待される。

最近、常時火山に追加された弥陀ヶ原を対象としており、近年、熱活動が高まっている地獄谷周辺は、人的災害のリスクも大きく、火山監視の高度化は急務である。一方で、当該地域は、長らく立ち入りが規制されてきたため、過去の資料が非常に少なく、本研究を実施する意義は大変大きい。

これまであまり観測データのない火山に新たに観測施設を設置することは、火山監視の基礎資料を得るうえで重要である。新湯の水位変動の原因解明にどこまで迫れるかは未知数であるが、今回得られるであろうデータを説明するモデルを構築し、水位変動のメカニズムについての一定の知見が得られれば学術的にも意義があると思われる。

本研究の目的、目標、進め方は適切であり、研究の成果も概ね期待できると判断できる。今後は以下の点に留意しつつ、提案された研究計画を進めるべきである。

- ・可能ならば火山研究部第三研究室の助言・協力も得てはいかがか。事故の無いように慎重に進めて頂きたい。
- ・1年間というのは、装置の設置なども含む観測期間として、またデータの分析の時間としても少し短すぎる印象である。逆に、原因解明といった研究成果でなく、観測して実態を把握するという基本的なところを目標にしてもよい。
- ・火山が対象であること、地台の担当官が一人であることから、研究所並びに地

台からの協力・支援体制については、十分、調整願いたい。

- ・到達目標に「立山・・・火山活動の状況把握」とありますが、それについては、更にいくつかステップを踏む必要があるように思える。「・・・火山活動の状況把握 のための基礎資料を入手する」というのが目標としてふさわしいのではないか。また「調査研究原稿作成、(〇〇へ報告する)」というのも報告先を明確にして目標としてあげるべき。